

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100234		
法人名	特定非営利活動法人タチカワプラザ		
事業所名	グループホームさとこ		
所在地	鳥取市立川町5丁目256-1		
自己評価作成日	平成28年8月3日	評価結果市町村受理日	平成28年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164
訪問調査日	平成28年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

チームワークをより一層高め、質の向上を計り、入居者様に日々暮らしやすいホーム作りの丸となって取り組んでいます。

運営理念と独自の生活理念を元に自分らしさを活かした生活が送れるよう、日常的に域内の施設と交流を図られています。また、地域ボランティアの訪問を受けられるなど、つながりながら暮らし続けられるよう取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示し、施設のケア目標として意識づけ、実践につなげている。	理念は玄関及び一階の共有スペースに掲示されている。また、毎月のミーティングにおいて生活理念・運営理念を職員全員で確認され、実践に繋がられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の行事に参加している。毎月、ボランティアの方が来訪される。	町内会に加入されホームたよりを地域に配布されている。事業所自体が地域の一員として行事に参加されるほか、近隣にある施設と交流を深められたり、毎月ボランティアの方の訪問を受けられ、利用者はオカリナ演奏、日本舞踊、エレクtoon、カラオケなどを日常的に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に4回、ホーム便り作成し、配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議であがった各委員の方の意見、情報を速やかに実践につなげている。	2ヶ月に1回、運営推進会議が開かれ、活動実績とヒヤリハットの報告、利用者やサービスの実際、各委員の意見などの情報をサービスの向上に活かされている。会議録は玄関の見やすいところに掲示されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方に意見、問題点、情報等頂いたり、相談している。	市の担当者とは、日頃から事業所の実情を踏まえた介護についての意見や情報等を聞かれており、サービス向上に活かされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で意識し、日頃より指摘し合ったり、時には話し合い、ケアに取り組んでいる	職員全体で研修をされ、身体拘束をしないケアについて取り組まれている。玄関前の道路は交通量が多く、安全面を考慮され、利用者や外部者の出入り防止の為施錠されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修(接遇研修)等活用し、言葉づかい、態度、自尊心を損ねないよう注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の理解と活用を深めて、研修などにも積極的に参加している。現在、1名の方が活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前、事前にご本人、家族に見学して頂き、契約締結決定の際、十分な説明を行ない、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で、職員が聴いた事、家族会、面会時等に伺った意見、要望等、ミーティングで解決するよう話し合い、運営に反映させるよう努めている。玄関に意見箱設置。	玄関には意見箱が設置されている。家族会は年2回行われ、家族会、家族の面会時、家族来訪時に意見、提案を聞くよう努められ、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会・ミーティングで、職員からの意見等を聞き、反映に努めている。管理者は職員との関係を大切にし日々話をするよう努めている	管理者は日頃の職員とのコミュニケーションを通じて関係性を深められ、毎月の全体会、ミーティングでの職員からの意見等を事務所の運営・改善に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直し等し、働きやすい職場環境の構築に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的職場内が、学びの場として、技術アップを図ると共に、力量を研くよう、研修の提供と資格取得の支援を行なっている。研修内容は、研修資料の回覧と、ミーティングで報告を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会相互研修参加。自らのケアを振り返ったり、職場にて報告し、良い点等取り入れ、ケアにつなげている。ネットワーク作り(管理者)参加、メンバーと情報交換し、サービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人様の不安、要望等聞き取りしている。ケアの基本はコミュニケーションだと考え、思いに寄り添い、耳を傾ける事で信頼関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に困っている事、不安に思っている事を伺い、入所後のケアに活かすようにしている。面会時には、日常の様子を伝えている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、ご本人様に見学して頂くようにしている。本人様の状態を見極め、本人、家族様の要望をきき、良い方法を考え、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事、興味のある事を見つけ出し、職員で情報共有し、状況に応じた役割が発揮出来るよう、共に暮らしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に出来る協力を依頼し、日々の生活をお話し、家族の絆を大切にしよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの場所、出かけてみたい場所等、ご本人、ご家族様に再確認し、個別支援に努めている。	利用者の馴染みの場所等について、個別に聞き取りをされ、事業所として出来る限りの支援に努められている。また馴染みの人の訪問が途切れないよう支援されている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、好きな事、得意な事を把握し、関わり合えるよう、また、孤立しないよう職員が配慮し、関わり合いが持てるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も職員が見舞、面会に出かけている。必要に応じ、利用者の情報提供において連絡を行ったり、家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や関係者から、以前の暮らし方の情報を頂いたり、本人様とのコミュニケーション、行動の中で、ヒントを見つけ、その人らしい生活が送れるよう取り組んでいる。	利用者の思いを個別に聞き取り、価値観の違うそれぞれの利用者共感しながら接するように努められており、その人らしい生活が送れるよう取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、利用者の生活歴を把握すると共に、入所後の関わりの中で、情報を得たり、その時々、家族から情報を頂くよう努め、利用者の生活が継続していけるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを知り、体調に合わせた無理のない生活を送って頂き、声かけを行ない、出来ない事への支援をして行く。日々の記録、日報や申し送りで状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議での意見、ご家族の希望、ミーティングでの職員の意見、アイデアを反映し、計画書を作成、モニタリングの実施に合わせ見直ししています。	介護計画は、利用者の状況に合わせて家族の希望を聞かれながら、必要な関係者と話し合わせられ作成されている。また、毎月モニタリングが行われ、現状に即した介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録、介護日誌等の記録を記入し、職員は情報共有し、日々のケアに取り組み、計画書の見直しが必要であれば変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、支援の方法を検討し、対応している。急変、緊急時は医療機関、ご家族と連携を図り、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、外出支援を積極的に行なっている。閉ざされた空間での生活にならないようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を大切にかかりつけ医を決めています。利用者それぞれの主治医と情報提供し、共有しながら連携を図っている。通院のむずかしい利用者には、往診して頂き、支援している。	本人、および家族の希望するかかりつけ医となっている。それぞれの主治医の往診を定期的に受けらており、通院について家族が難しい場合は、職員が同行し、結果はその都度報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職不在。日常の体調など観察し、変化に応じ、家族、かかりつけ医に連絡し、指示を仰ぎ、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関と情報の共有と、入院時の状態を把握したり、退院後の対応等、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事、出来ない事を説明しているが、利用者の状況に合わせて、家族と話し合って、ご本人様にとって一番良い方向への話し合いを行なっている。主治医と連携も密にして、当施設で出来る方法を共有しながら、チームで支援している。	重度化や終末期に向けて事業所で出来る事を説明し、本人、家族とその都度話し合い確認されている。AEDを設置され、急変時での使用の有無について家族と話し合い、書面を作成された。ターミナルは実施されていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置。定期的な研修、心配蘇生法など、救命処置法を学んだり、急変、事故発生時には介護記録等活用し、情報共有、事故防止の徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域自警団の協力の下、利用者とともに避難訓練を実施。スプリンクラー、防火カーテン設置。災害には無線の取り付けにより、情報収集や避難への強化となり、地域を含めた連絡網の作成で協力体制を築いている。	年2回、消防署・地域自警団の協力の下、避難訓練およびAEDを使用する訓練を実施された。スプリンクラー、防火カーテンを設置されており、無線の使用による情報収集等、災害時に備えられている。また、夜間想定での避難方法について職員間でシミュレーションされた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格やペース、プライバシー保護、尊厳を重視し、本人の気持ちを大切に考え、状況に応じたケアに心がけています。	一人ひとりの人格やペースを尊重し、日々の生活の中でプライバシーを傷つけないような言葉かけや対応を心がけられている。排泄時や入浴時には、本人の気持ちや状況に応じて支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をするにも、前もって確認するようにしている。言われた事、やりたい事をゆっくり聞き取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活リズムを把握し、その日の体調等考慮し、希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、移動美容院を利用。利用者の好みやこだわりを尊重しながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事の提供、入居者様が可能な食事の手伝い、片付け、コミュニケーションを図りながら、職員と共に食事をしている。	食事の買い出しは、週3回、利用者で職員と出掛け、食べたい物、買いたい物を一緒に選ばれている。利用者の能力に応じて、野菜の皮剥きや切り込み・調理・食器拭き等を手伝って貰われている。年2~3回の外食行事の他、個別で外食に出掛けられ、気分を変えて楽しむ様支援されている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた調理をし、安全な食事を提供。個々に合わせた水分摂取量、時間、回数に分けて提供し、一日を通して確保出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に合わせ、口腔ケアを毎食後行なっています。歯科医院往診依頼、指導を受けたり、洗浄除菌し、清潔保持出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握するよう、チェック表に記入し、本人様に合った排泄介助を行っています。時間をみてトイレ誘導したり、リハパンを綿パンに替え、夜間安心の為使用。朝は外すようにしている。状況に応じて、夜間PT使用されてる方もあり、本人様に合った排泄介助をしている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを把握されている。また、それぞれの状況に合わせて排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を確認、排便の状態に応じ水分補給を心がけ、食物繊維の物を提供するよう心がけたり、牛乳を飲んでもらったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のタイミングなど、ペースに合わせて、個々に楽しんで頂く入浴法をしている。	利用者の希望に合わせて、週4回程度入浴支援が行われている。入浴剤を変えたり、職員と会話をしたりと、入浴を楽しめるよう支援されている。また、女性の利用者にはブローをして髪の毛を整えられ、入浴後も気持ちよく過ごせる様氣遣われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じた対応し、個々に合わせて休憩できるよう、室内の温度調整しながら、過ごしやすい環境に心がけ、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用内容は、すぐに確認できるようにしており、スタッフ一人ひとりが理解するよう努めています。内容の変更等は日報に記入、申し送り等活用し、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、その方の能力に合わせて、買物、散歩、得意な事等、気分転換の支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望、天候など考え、外出、散歩、ドライブ等取り組んでいる。ご家族様にも協力して頂き、ご本人の意向にそえるよう努めています。	年間の外出計画と合わせて、ドライブ・買い物など天候や本人の状態に添った外出支援をされている。敷地内に植えてある木の果実や野菜を収穫されたり、玄関での外気浴、散歩等を日常的に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望のある方は、低額ではあるが、自分で所持しておられる方もいる。自己管理出来ない方も、買物等行なえるよう、立替えて支払いするなど対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、いつでも連絡出来るようにしている。携帯電話を持たせ、自由にかけられている利用者様もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ、壁画や飾りをし、季節を感じてもらおうよう工夫している。	玄関および共用空間には、観葉植物や季節の花、利用者と共に作られた四季ごとの作品が飾られている。テーブルや椅子の配置を工夫し、それぞれの居場所でゆっくり過ごせるよう配慮されており、日中、利用者はゲームや体操・テレビ・BGMを楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は自由に、その時の気分や状況によって、居場所をかえ、過ごせるよう、イス、家具の配置を変え、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は出来る限り、自宅環境に近いものとなるよう、家族様の協力の下、整えるようにし、安心して過ごせるよう工夫している。	室内は本人の使い慣れたなじみの物が持ち込まれて、居心地よく安心して過ごせる様工夫されている。居室入口は、部屋ごとに色や柄の違うのれんがかけられ、ベッド、クローゼット、収納庫、洗面台、防火カーテンを設置。一人がけの椅子も置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が使用するトイレ、エレベーター、また、自室内のBOX(衣服入れ)に分かりやすく表示。混乱を防いだり、自立した生活が送れるよう工夫している。		